

2024年（令和六年） 12月27日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階  
ホームページ <https://oil-info.iecej.or.jp>

## ■ 概況

当週（12月19～24日）の国際石油市場は、クリスマス休暇前の薄商いの中、狭いレンジで不安定な動きを示した。欧米の金利状況、トランプ次期大統領の発言が主な変動要因。

NYのWTI原油先物市場は、19日、69.91ドルで始まり、週明け23日は69.24ドルまで低下したが、24日には70.10ドルに上昇、70ドル台を回復し終わった。

また、中東産パイ原油/東京市場（2月渡し）も、前週（12月12日～18日）は73.00～74.00ドルの範囲で推移したが、当週は、12月19日73.00ドル、20日72.50ドル、23日73.30ドル、24日73.10ドル、25日73.00ドル。

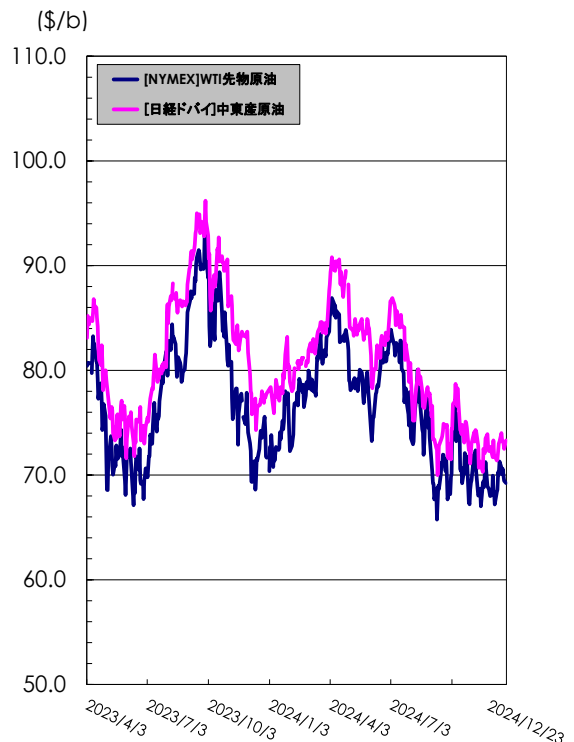
対ドル為替レート（TTM）は前週（12月12日～18日）152.40～154.27円の範囲で推移したが、当週は、12月19日154.94円、20日157.95円、23日156.72円、24日157.45円、25日157.38円となった。

財務省が12月26日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、12月上旬の原油輸入平均CIF価格74,818円で前旬比

697円安、ドル建て77.25ドルで前旬比0.58ドル安、為替レートは1ドル/153.97円。

そのような中で、12月23日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比4.8円高、軽油は同4.9円高、灯油は同80円高（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は180.6円となった。12月26日～1月8日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は15.0円（補助金がない場合の次週予想価格194.9円、168円から185円の補助率30%支給部分5.1円、185円を超える補助率100%支給部分は9.9円）と、実額ベースでは前週比2.3円の増額となった。

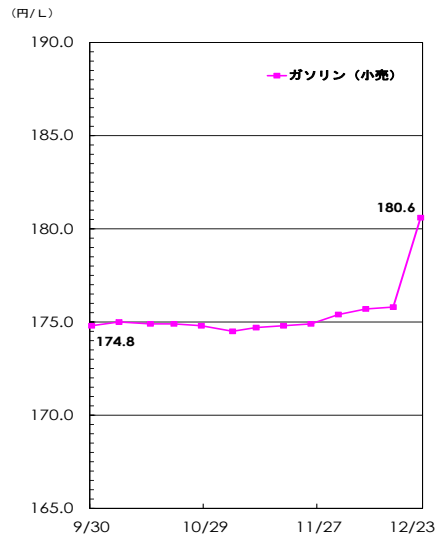
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	12/15～12/21	2,917 ▲62	▼-
	トッパー稼働率 (%)	"	84.3 ▲1.8	▲-
	原油在庫量 (千kl)	12/21	10,243 ▼341	▲-
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	12/23	73.30 ▼0.70	▼-3.6
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	12/23	69.24 ▼1.47	▼-6.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	12月上旬	77.25 ▼0.58	▼-13.05
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	74,818 ▼697	▼-8,736
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	153.97 ▲0.30	▼-6.87
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/23	157.72 ▼2.80	▼-14.50



(単位: 千kl、円/%)

		今週		前週比	前年比
需給	在庫	12/21	1,723	▼ -121	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 12/17 ~ 12/23	82.0	▲ 2.0	▲ 1.0
価格		(TOCOM/中部) 12/23	86.0	▲ 3.0	▲ 7.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 12/23	180.6	▲ 4.8	▲ 5.6

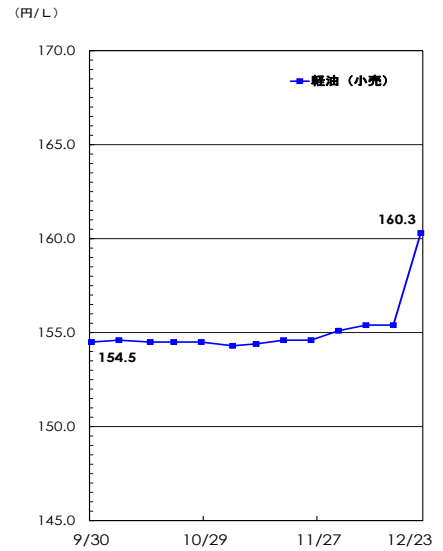
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

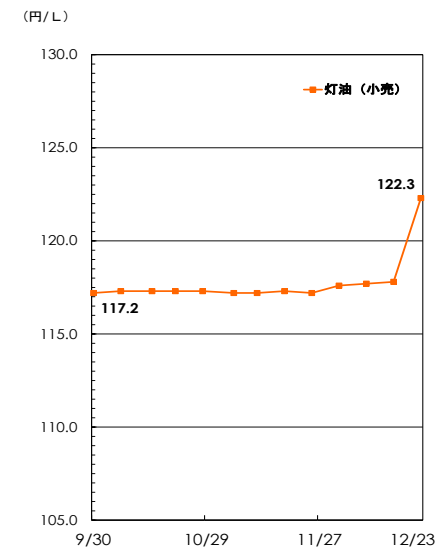
		今週		前週比	前年比
需給	在庫	12/21	1,379	▼ -82	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 12/17 ~ 12/23	84.7	▲ 1.6	▲ 2.7
価格		(TOCOM/中部) 12/23	-	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 12/23	160.3	▲ 4.9	▲ 5.8

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

		今週		前週比	前年比
需給	在庫	12/21	2,270	▼ -174	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 12/17 ~ 12/23	83.2	▲ 1.7	▲ 1.5
価格		(TOCOM/中部) 12/23	89.0	▲ 4.0	▲ 9.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 12/23	122.3	▲ 4.5	▲ 5.7



## ■ 関連情報

### 1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（12/12～12/18）のNYMEX・WTI先物市場は70.02～71.29ドルの範囲で推移した。

当週、12月19日は、米国連邦準備制度理事会（FRB）が、金利を0.25%引き下げたものの来年の利下げペースの減速を示唆、また、英国イングランド銀行（中央銀行）が金利を据え置いたことから、金利引き下げによる景気浮揚期待が後退、反落した。1月物終値は前日比0.67ドル安の69.91ドル。

週末20日は、トランプ次期大統領が欧州連合（EU）に対し、米国産の原油・天然ガスの輸入拡大を要求、また、米国株式市場の好調による投資意欲の拡大で、小幅に反発した。この日から直近限月となった2月物終値は同0.08ドル高の69.46ドル。

週明け23日は、クリスマス休暇を前にした薄商いの中、外為市場のドル高進行に伴う原油先物の割高感から反落した。週末に、米国のつなぎ予算が土壇場で成立したことによる安心感もあった模様。2月物終値は同0.22ドル安の69.24ドル。

24日は、中国政府から特別国債発行が発表され、これによる景気刺激策に対する期待感、また、26日発表予定の米

国在庫週報の原油在庫取り崩し観測から、反発、70ドル台を回復した。1月物終値は同0.86ドル高の70.10ドル。

25日は、クリスマス休暇につき休場。

### 2 海外/米国石油市場

12月20日時点の米国石油在庫週報は、クリスマスにつき一日遅れの26日発表。

EIAによると12月23日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.8セント高の1ガロン3.024ドル（123.8円/ℓ）と2週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比1.8セント安の1ガロン3.476ドル（142.8円/ℓ）と2週ぶりの値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、12月20日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比1基増の483基となった。

### 3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2024年12月15日～12月21日に休止したトッパー能力は3.5万バレル/日で、前週に対して横ばい（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は291.7万klと、前週に比べ6.2万kl増加。前年に対しては7.2万klの減少。トッパー稼働率は84.3%と前週に対して1.8ポイントの増加、前年に対しては1.2ポイントの増加となった。

## 4 国内/製品在庫量

12月21日時点の在庫は、全油種が取り崩しとなった。  
 ガソリンは172.3万kl、前週差12.1万kl減。前年に対しては17.8万kl多い。  
 灯油は227.0万kl、前週差17.4万kl減。前年に対しては11.9万kl少ない。  
 軽油は137.9万kl、前週差8.2万kl減。前年に対しては12.0万kl多い。  
 A重油は72.2万kl、前週差2.0万kl減。前年に対しては2.2万kl多い。  
 C重油は161.5万kl、前週差1.4万kl減。前年に対しては18.4万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (12/21)	前週 (12/14)	前週比
ガソリン	1,723	1,844	▼ -121 (-7%)
ジェット燃料	801	835	▼ -34 (-4%)
灯油	2,270	2,444	▼ -174 (-7%)
軽油	1,379	1,461	▼ -82 (-6%)
A重油	722	742	▼ -20 (-3%)
C重油	1,615	1,629	▼ -14 (-1%)
合計	8,510	8,955	▼ -445 (-5.0%)

## 5 国内/元売会社製品卸価格

12月17日～23日のドル建て中東原油価格は前週比わずかに値上がりし、為替レートも大きく円安が進み、元売会社の卸建値は値上がりしたものと見られる。12月26日からの補助金は増額されるため、12/26～1/8の実質卸価格は値下がりとなる模様。

## 6 国内/製品小売価格

12月23日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比4.8円高の180.6円、軽油は同4.9円高の160.3円、灯油は18%ベースで同80円高の2,201円(1%ベースでは4.5円高の122.3円)。ガソリンは7週連続の値上がり、軽油は2週ぶりの値上がり、灯油は4週連続の値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がり47都道府県、横ばいはなし、値下がりもなかった。全国最安値は岩手県の173.9円、その次は愛知県の175.3円であった。他方、最高値は長野県の190.8円。最も値上がりしたのは宮城県(同7.6円高)だった。

次回調査時(1/6)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (12/23)	前週 (12/16)	前週比	直近高値
レギュラー	180.6	175.8	▲ 4.8	23/9/4 186.5
灯油	122.3	117.8	▲ 4.5	08/8/11 132.1
軽油	160.3	155.4	▲ 4.9	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。  
次回 (2024第38号) の公表は、1/10 (金) 14:00 です。

2024年12月より石連週報の公表内容の見直しがあり、「3.国内/製品出荷量」の項目・内容を変更しました。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

#### ②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

#### ④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。